

静岡県環境放射能測定技術会（令和4年度第3回）会議録

1 開催日・場所等

日時	令和4年11月21日（月）10:00～12:00
方法	Web会議
出席者	構成員：加藤危機管理監代理兼危機管理部部長代理ほか15名
議事	<p>議事</p> <p>(1) 浜岡原子力発電所周辺環境放射能調査結果第195号（案）</p> <p>(2) 静岡原子力だより195号（案）</p> <p>報告</p> <p>(1) 令和4年度第3四半期浜岡原子力発電所周辺環境放射能測定結果速報</p> <p>(2) 浜岡原子力発電所の現況</p>
配布資料	<p>資料1 浜岡原子力発電所周辺環境放射能測定結果報告書 （令和4年7月～9月）（静岡県環境放射線監視センター）</p> <p>資料2 浜岡原子力発電所周辺環境放射能測定結果報告書 （令和4年7月～9月）（中部電力(株)浜岡原子力発電所）</p> <p>資料3 浜岡原子力発電所の運転状況等（中部電力(株)浜岡原子力発電所）</p> <p>資料4 浜岡原子力発電所周辺環境放射能調査結果第195号（案）</p> <p>資料5 静岡原子力だより195号（案）</p> <p>資料6 令和4年度第3四半期浜岡原子力発電所周辺環境放射能測定結果速報 （静岡県環境放射線監視センター及び中部電力(株)浜岡原子力発電所）</p> <p>資料7 空間放射線量率測定装置の更新整備について （静岡県環境放射線監視センター）</p> <p>関連資料1 浜岡原子力発電所周辺環境放射能調査解説資料</p> <p>関連資料2 浜岡原子力発電所周辺環境放射能調査結果第194号</p> <p>関連資料3 静岡原子力だより194号</p> <p>中部電力報告資料 浜岡原子力発電所の現況</p>

2 審議事項

- (1) 浜岡原子力発電所周辺環境放射能測定結果報告書
（令和4年7月～9月）
- (2) 浜岡原子力発電所の運転状況等（中部電力(株)浜岡原子力発電所）
測定機関が、資料1（環境放射線監視センター）、資料2・3（中部電力(株)浜岡原子力発電所）により測定結果を報告した。

<質疑応答>

構成員：資料1添付3のトリチウムの捕集カラムの破損事象に関して、上流側ニードルバルブの前にある積算流量計はきちんと機能していたか。また、エアフィルターが詰まっていなかったかどうかの確認はしているか。

監視センター：年1回の保守点検にて、積算流量計の正確性の確認及びエアフィルターの掃除を行っており、問題はなかったと認識している。

構成員：確実に規定の流量で流れていると考えれば良いか。

監視センター：そのとおり。

構成員：資料1添付3のトリチウムの捕集カラムの破損事象について、陰圧であったり、圧が上がってカラムが割れている訳ではない、との理解で良いか。

監視センター：カラムに掛かる圧力を常に記録している訳ではないため、陽圧により破損したのか、陰圧により破損したのかは分かっていない。しかし、実験室レベルで過剰な陰圧状況を模した過酷試験をやっており、その実験では単純にはカラムが割れないことを確認している。また、今回カラムが破損した際に、上流側の配管部分に水が多少溜まっていた。そのことがどの程度影響しているかはわからないが、白砂局特有の配管経路等に原因があるかもしれないという考察があるので、今後、平行試験をやって、きちんと検証していきたいと考えている。

構成員：シリカゲルの粒径が問題なのであれば、カラムに詰める前に、小さいものは除いて詰めれば良いと思うが、どのように対応しているのか。

監視センター：あまりにもカラムの中にシリカゲルが詰められすぎないように、量の管理をしている。しかし、粒径の大小でどの程度カラムに圧力が加わるのかという検証自体はできていない。

構成員：ふるいにかけることで粒径の問題はある程度クリアできると思う。容器の材質をガラス以外のものに変えるというのはどうなのか。

監視センター：以前にも、ステンレス等もあると御提案をいただいていた。現状、シリカゲルが落ちないようにつけている焼結フィルターとの兼ね合いで、ガラスカラムをずっと使ってきた。今後は、国の方のマニュアルを見ながら材質変更を検討したい。

構成員：資料2添付3の空間放射線量率の下限逸脱について、線量率計の近傍に車があり地面からの放射線を遮ってしまったために線量率が低下したということであれば、駐車を禁止すれば良いのではないか。

中部電力：線量率計の近傍は駐車場で、普段から車が止まっているが、普段の車の駐車状況では測定結果にあまり変化はない。今回は、止まっていた車が、遮蔽剤を多く積んでいるX線の検診車であったため、地面からの天然放射性核種の遮蔽がより大きく効いてしまったのではないかと考えている。以前にも、検診車が来た際に、下限には至らない範囲で値が下がることがあった。

御前崎市：市役所の駐車場のため、普通の車の駐車が大丈夫ということであれば、検診車だけを駐車させないことは可能だと思う。しかし、常に駐車スペースが少ない中で、一般車両を制限していくことは難しいと思う。

構成員：承知した。値が下がる度に何が止まっていたかをその都度調べるのは大変

なので、無駄な時間をとられないようにする方がよいと思う。

掛川市：資料2添付1の上限逸脱について、簡易測定だとは思いますが、今回上限を超過した試料は今後も数値が超過するのか教えてほしい。また、バックグラウンド測定である掛川市役所大東支所において、セシウム137が変動幅の上限を超過したことについて、今後継続的に調査していくのかどうか教えてほしい。記載事項を詳しくすることについてはお願いしたい。

監視センター：1点目の、バックグラウンド測定以外のところで値が出ているものが、今後も同様に出てくるのかということについては、半減期があり、だんだん減衰していくものと思う。ただし、例えばセシウム137は30年ぐらいの半減期があるため、今後も出てくるということはあると思う。平常の変動幅を超えた場合については、その都度発電所からの放出がないかどうか等を調べて、同様に報告する形になると思う。

2点目について、バックグラウンド測定は、現状その場所にどの程度あるのかを調査するものであり簡易測定ではない。また、毎年調査ではない。測定地点を毎年変えているため、掛川市役所大東支所の地点では、土の性状等からこういうデータだった、ということを確認したということである。

説明事項を詳しく記載することについては、どのようにするのが良いか検討する。

掛川市：掛川市役所大東支所での調査は、常時行うのではなく、今回に限って行ったということよいか。

監視センター：5年に1回状況の把握をしており、次はまた5年後に調査をする予定である。

掛川市：異常値を測定したにもかかわらず、5年に1回の測定ということか。

監視センター：現状の性状を把握しているものである。どういう土の性状かどうかということは、大東支所に聞き取りをして確認することは可能である。

掛川市：承知した。

事務局：バックグラウンド測定は、平常の値をローテーションで把握・蓄積するものであって、今回の値が異常値と示すものではない。説明は丁寧に記載していくということで理解してほしい。

構成員：資料1添付3のシリカゲルが壊れる事象について、令和2年・3年にもこの問題を議論したが、その際に、ガラスカラムにこだわることなく、他の材質のカラムへの変更は考えられないか話があった。カラムの材質変更については検討していないのか。

監視センター：カラムの材質については、国の方のマニュアルを見ながら検討する。昨年度から経緯を言うと、基本的にそこにある材料で焼結フィルターとかもあるものですから、それで使えるような材料の中で検討させていただいたということである。

構 成 員：資料2添付1の土壌のバックグラウンド測定について、他の土壌の測定結果に比べて少し高めだと思う。その土性や土質がどういうものであるかを記載すると高い値の原因が少し想像がつくのではないかと思う。毎年やるものでないバックグラウンド測定については、記載事項について少し検討してほしい。

監視センター：大東支所の土の質に関して、客土の持ち込みがあったかどうかや、もともとの土壌を使っていたのかとかについては、大東支所に聞き取り等すればわかると思うので調査を検討したいと思う。

構 成 員：資料2添付2について、放水口モニターは管理区域内ではないとの理解でよいか。また、放射性液体廃棄物の放出状況が、時系列でわかったほうがよい。どういう風に試料をとっているかわからない。

中部電力：放水口モニターが管理区域にあるかについては、放水口モニターの各号機は海沿いにモニターの設備があり、この場所で測っているため、管理区域の中ではない。ここから出たものが最終的に配管を通して排出されている。その放出されたところの水の放射性物質の濃度を測定している。放出状況が時系列で知りたいと言うのであれば資料を作成することはできる。どのような資料が欲しいのかを伺い、今後対応していきたい。

<審議結果>承認。

(3) 浜岡原子力発電所周辺環境放射能調査結果第195号(案)

事務局が、資料4により、浜岡原子力発電所周辺環境放射能調査結果第195号(案)を説明した。

<質疑応答>なし。

<審議結果>承認。

(4) 静岡原子力だより195号(案)

事務局(原子力安全対策課)が、資料5により、静岡原子力だより195号(案)を説明した。

<質疑応答>

構 成 員：セシウムは食品衛生法の基準値が書いてある。ストロンチウムは全国の平均値は書いてあるが、基準値はどれぐらいなのか。

事 務 局：ストロンチウムの基準値については、過去の何か探したところ特に適当なものが見当たらなかった。参考として全国の調査の平均値を目安として比較できるように記載している。

<審議結果>承認。

3 報告

(1) 令和4年度第3四半期浜岡原子力発電所周辺環境放射能測定結果速報

測定機関（環境放射線監視センター及び中部電力株）が、資料6により、令和4年度第3四半期浜岡原子力発電所周辺環境放射能測定結果速報について、また、資料7により、モニタリングステーション空間放射線率検出器の更新について説明した。

<質疑応答>

構成員：資料6添付1の図2線量率トレンドグラフについて、指標線量とは何を指すか。

監視センター：レスポンスマトリックス法で、人工放射線各種・天然放射性各種を各系列ごとに弁別するにあたって出る指標である。詳しい説明は別途回答する。

(2) 浜岡原子力発電所の現況

中部電力株が、中部電力報告資料により、浜岡原子力発電所の現況について説明した。

<質疑応答>

構成員：戦争やテロに対する発電所の物理的な防護に関する広報は実施しないのか。

中部電力：発電所のセキュリティーに関することについては、広報しにくいことであるが、日頃から発電所において警備をしっかりとやっている姿を見せるということが非常に大事だと思っている。

以上